

人新世と絶滅を前提にした気候危機回避に向けた考察

Anthropocene Extirpation and Climate Crisis Prevention

○外岡 豊*
Yutaka TONOOKA

1. 人新世と絶滅を前提にした学問体系の再構築

星野克美 83 才から人新世と絶滅¹について、その考察を継続発展させる研究活動の創始を託された。人新世と絶滅と言う二つの鍵概念が重要であるのは、それが不可避な地球環境の帰結を止めることができない人類の現実を見据える他ないからである。気候危機対処をしなければ人類がきっかけで大絶滅が起こると国連総会に恐竜が突然現れて演説する動画がある²。最早、世界中の誰もが、「気候危機を知りません」とは言えない時代に入っている³。それは当然、諸研究においても問われることで、旧来の学問体系は瓦解する恐れがある。特に気候危機対策においては人新世と絶滅とを考慮して研究を企画する他ない。しかし限られた専門知と時間においてその要求に応えることは不可能に近く、理系の研究は哲学の不在を問われ、哲学的な研究は地球科学知見の不足を問われ、既存の学問のままでは無意味に帰する恐れがある。

そうした中で、学問体系の再考察を始めている。星野著では形而上、形而下両学において関連する諸説を要約して紹介しており、鍵となる概念も提示している。それらを手がかりに、既往の学問体系を人新世と絶滅に注目して再検討し、人類社会のあり方につなげる。

2. Paris 協定への態度

実践的な対応においても Paris 協定1.5℃努力目標も最早達成不可能を認める他ないが、だからといって投げ出せは更に事態は悪化する。方やアニメゲームやメタバースや電子暗号通貨、生成 AI 等、際限なく進化する情報化が進行し、その電力需要も莫大で、排出削減に逆行する諸活動が世界中で活発に行われており、大多数は気候危機回避が緊急課題であるとの認識もない。かく言う自分も排出を伴う日常生活を続けている。この事態にどう立ち向かうのか、感染症禍で自宅蟄居2年半、益々閉塞化する日本への危機感を高めつつ、とりとめもない考察³とともに次のような模索もして来た。

3. 気候危機回避につながる社会変革への実践的考察

気候危機は世界的な課題であり、感染症蔓延やウクライナ侵攻、米中対立の中での食料、エネルギー安全保障が脅かされる危険を認知しつつも世界市場経済の禍中で生き延びるほか無い事態への対処については昨年⁴の発表でも言及したが、気候危機の非常事態に直面しつつ、その解決に向けても、それ自体のあり方においても根本的に変革しなければならない課題が山積しており、とくに日本では失われた三十年、日増しに深刻化する重要問題への抜本的な対処が問われている。それを強く認識している以上、緊急対応を提言して

来たが、より具体的に、かつ社会そのものの根底から変革することについて考察を深めようと模索を続けている。

4. 福島原発事故被災者人生復興を例題として

2011年の大震災が福島原発事故につながったのは真に人新世と絶滅に向かう人類社会の象徴的な出来事であった。この事態に真摯に向き合うことこそが、上記の問題への実践的な考察につながるものである。復興関連の実践志向研究⁵に参加してSDGsの誰一人取り残さずという目標⁶を具現化するなら、いまだに1割の人も帰還していない福島県浜通り地域においてどのような地方自治を行うべきなのか、自治体職員の職務を全面的に問い直し、真に住民に寄り添う自治体行政への試行錯誤を始めるべきと思い当たった⁷。

5. 教育からの再出発

自治体職務のあり方について考えるようになったきっかけは、彼らの硬直化した組織対応で在住都市での気候危機施策に全く貢献できない絶望体験⁷であったが、国立大学の教員として二十年、教育の当事者であっただけでなく、地方自治体の職員になった多くの卒業生を輩出して来た経緯もあり、気候危機の緊急事態に対処できるよう、日本を立て直すためには次世代の教育から始めなければならないと考えた。学校教育と学習塾の出来上がった体系を打破⁸して身体的にも精神的にも健康な人を育てること、潜在的な創造性を発揮させる工夫をすること、情報機器の電子画面やゲームからの健康影響に十分留意すること等への考察から、その構想と提言をしている。

6. 結論に替えて

研究接近法とも関わるが学際的でも分野融合でも不十分で超学的な接近を志向すべきである。また合目的な研究成果が重視される風潮に抗して人格の涵養としての学問の復興と、商品社会で分離されている技術と芸術を統合し、芸能や宗教信仰とも不可分な、身体性あるいは生物としての人間、土とつながる生活への回帰等、気候危機回避とつながる真の持続可能希求との接続を追求すべきであり、それに寄与する実践的な試行も続けたい。

文献,注 1: 星野克美,人新世の絶滅学,鳥影社,2022.11 2: UNDP, 絶滅を選ぶな
3: 外岡豊,とりとめない考察—人新世時代の人類倫理構築に向けて, 地球システム・倫理学会年報 No17 4: 気候危機回避と日本社会安全保障に向けた統合的対応策私案,本学会2022年大会 5: 川崎興太福島大学主導,福島長期復興政策研究会 6: 筆者は日本建築学会でSDGs対応活動を主導 7: 外岡豊,災害の人的被害拡大防止を通じたレジリエントで持続可能な社会構築に向けて,地球システム・倫理学会年報 No16 8: 南郷市兵,2023.6.14講演,大熊町立学び舎ゆめの森では新しい学校教育として画期的な取り組みをしている